

2030年に向けた温室効果ガス（GHG）削減目標と取り組み状況

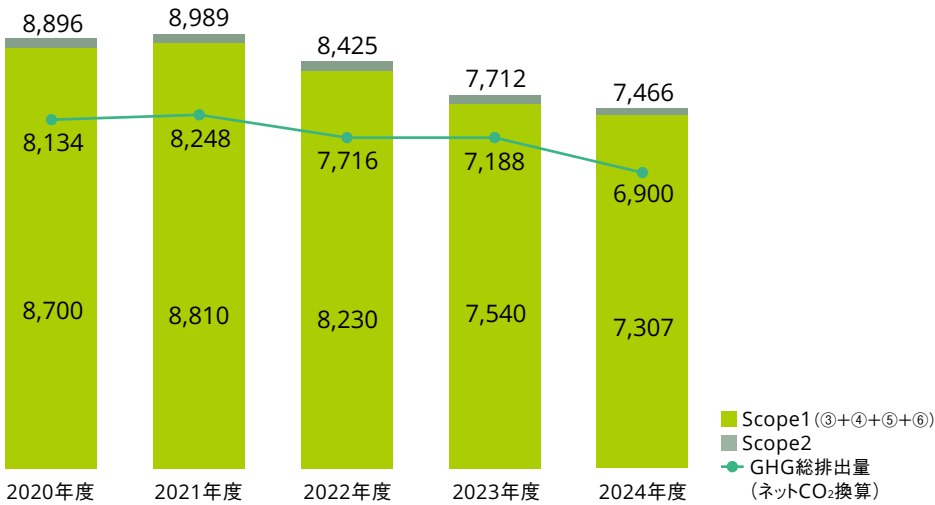
温室効果ガス（GHG）排出状況と削減実績

当社グループは企業活動を通じて重点的に取り組む社会課題であるマテリアリティ（重要課題）の一つとして「地球環境への配慮」を掲げ、リサイクルによるエネルギー代替の推進やバイオマス発電の活用など地球温暖化防止に取り組んできました。また、2020年12月には、「2050年カーボンニュートラル」に向けた道筋や、具体的な中期目標等を掲げた2050年“カーボンニュートラル”ビジョン「SOCN2050」を策定し、2050年までのあらゆる方策を通じて、当社グループの企業活動をカーボンニュートラルにすることに挑戦するとともに、サプライチェーンを通じて社会全体の脱炭素化への貢献をする為の取り組みを進めています。

当社グループの温室効果ガス（GHG）排出状況は以下の通りです。なお、日本政府が2025年に「日本のNDC（国が決定する貢献）」を新たに設定したことや、2026年度からCO₂排出量取引制度（GX-ETS）が開始する見通しであることなど、外部環境が大きく変化したことから、2026年度早期の公表を目途に「SOCN2050」の改定を進めています。



住友大阪セメントグループ 温室効果ガス（GHG）排出量
（千t-CO₂eq）



	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
エネルギー起源CO ₂	① 3,654	3,706	3,380	3,684	3,586
（うち、エネルギー起源CO ₂ （廃棄物由来））	② —	—	—	524	566*
Scope1	③ 3,458	3,527	3,185	3,512	3,427
Scope2	196	179	195	172	159
非エネルギー起源CO ₂ （プロセス起源）	④ 4,260	4,320	4,130	3,930	3,780
非エネルギー起源CO ₂ （廃棄物由来）	⑤ 762	741	709	—	—*
その他GHGガス	⑥ 220	222	206	98	100
GHG総排出量（CO ₂ 換算）①+④+⑤+⑥	8,896	8,989	8,425	7,712	7,466
GHG総排出量（ネットCO ₂ 換算）①+④+⑥-②	8,134	8,248	7,716	7,188	6,900

※ Scope1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出（エネルギーの燃焼、工業プロセス）
※ Scope2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う温室効果ガスの間接排出
※ GHG総排出量（ネットCO₂換算）：バイオマス・廃棄物などリサイクル品由来のCO₂は、WBCSD（持続可能な発展の為の世界経済人会議）のネットCO₂排出の考え方に基づき、GHG総排出量から除く。
* 2023年度実績より、廃棄物由来は、省エネルギー法改正によりエネルギー起源に変更。
〈集計範囲〉当社および主要関係会社48社

バリューチェーンにおける温室効果ガス（GHG）排出量：Scope3（2024年度）

カテゴリ	算出方法	CO ₂ 排出量 （千t-CO ₂ eq）
1 購入した製品・サービス	グループ会社外からのセメント製造用天然原料購入数量にCO ₂ 原単位を乗じて算出	42
2 資本財	新規固定資産計上金額にCO ₂ 原単位を乗じて算出	73
3 Scope1、2に含まれない燃料およびエネルギー活動	セメント製造用熱エネルギー購入数量および電力購入金額にCO ₂ 原単位を乗じて算出	290
4 輸送、配送（上流）	省エネ法（荷主、輸送業者に係る措置）に基づく定期の報告値	25
5 事業から出る廃棄物	廃棄物委託料などの金額にCO ₂ 原単位を乗じて算出	0.4
6 出張	出張旅費金額にCO ₂ 原単位を乗じて算出	2
7 雇用者の通勤	通勤交通費金額にCO ₂ 原単位を乗じて算出	0.4
9 輸送、配送（下流）	省エネ法（荷主、輸送業者に係る措置）に基づく定期の報告値	110
10 販売した製品の加工	セメントの販売数量にCO ₂ 原単位を乗じて算出	58
12 販売した製品の廃棄	セメントの販売数量をコンクリートに換算しCO ₂ 原単位を乗じて算出	477
13 リース資産（下流）	賃貸している建築物の床面積に面積当たりCO ₂ 原単位を乗じて算出	2
Scope3 合計		1,079

〈集計範囲〉
カテゴリ1、3：当社、八戸セメント㈱
カテゴリ9：当社本体、八戸セメント㈱、和歌山高炉セメント㈱
それ以外のカテゴリ：当社
※ 原単位の出典 「産業連関表による環境負荷原単位データブック（3EID）」（国立研究開発法人国立環境研究所）
「インベントリデータベースIDEA」 （国立研究開発法人産業技術総合研究所）
「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定の為の排出原単位データベース Ver.3.2」 （環境省）
「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量の算定方法基本ガイドラインに関する業種別解説（セメント製造業）Ver1.0」 （一般社団法人セメント協会）
※ カテゴリ4、9の算定値は、グループ会社であるエスオーシー物流㈱の輸送による排出量を含み、これはScope1、2排出量の算定値に重複しています。

2030年度の削減目標と取り組み状況

2030年度の削減目標			
セメント製造に関わるエネルギー起源CO ₂ 排出原単位を2005年度比 30%削減 （排出量では45%削減相当）			
(kg-CO ₂ /t-cement)			
セメント製造に関わる エネルギー起源CO ₂ 排出原単位 （廃棄物由来除く）	実績		目標
	2005年度	2024年度	2030年度
	316	263	220

① リサイクル品の更なる利用拡大により化石エネルギー代替率トップクラスの堅持
2024年度の栃木工場と岐阜工場の化石エネルギー代替率は、それぞれ60%後半を超え、業界トップクラスに位置しています。

実績	実績	目標
2005年度 17%	2024年度 43%	化石エネルギー代替率 平均50%以上へ

（当社グループ5工場8キルンのうち4キルンで化石エネルギー代替率80%超）

- ② 熱効率・電力消費の最小化により電気エネルギー削減（原料粉碎工程の最新鋭化）
③ 自家発電で使用する化石エネルギー削減（木質チップなどバイオマス燃料増量）